

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日	定時株主総会・期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
公告方法	当社ホームページ http://www.nikkai.co.jp/において、電子公告いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。		
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店		
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)		
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店		

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)

●ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)



## 日本開閉器工業株式会社

■お問い合わせ

〒213-8553 神奈川県川崎市高津区宇奈根715-1  
管理部：TEL.044(813)8026 FAX.044(833)5270

## 第55期報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成20年3月31日

日本開閉器工業株式会社

スイッチ分野で世界のトップを目指す——

事業拡大よりもお客様に信頼され、感動していただける差別化された  
特長ある企業を目指しています。

## 厳しい市場環境が続く中、 当社のビジネスモデルは確実に前進。 飛躍のための準備が整いました。

代表取締役社長

大橋智成



**2008年3月期の業績をどのように評価されていますか。  
産業用スイッチ業界の現況と併せてお聞かせください。**

当期の産業用スイッチ業界は、原油高やスイッチの接点に使われる母材である金や銀の高騰に見舞われました。日本電気制御機器工業会（NECA）による産業用制御部品における2007年度の操作用スイッチの出荷総額は、前期比98.1%と停滞しております。当社も例外ではなく、非常に厳しい一年でした。メーカーの役割である新商品の市場投入も数が少なかったことなどもあり、連結ベースの売上高は前期比99.4%の88億2百万円と業界を若干上回るもののほぼ同程度にとどまりました。また、利益面も素原材料の高騰や積極的な先行投資に伴う減価償却費・償却費（ソフト）が増加、また、急激な円高の影響等により減益となりました。これにつきましては大いに反省するとともに、ひとりの経営者として危機感を持っております。

しかしながら、当期の実績は、製造原価の高騰に耐え切れず値上げに踏み切る企業もある中で、商品は一切値上げすることなく利益を計上できましたのも、まだまだ先行投資に対する最終的なあるべき姿が完全に創り上げられたわけではありませんが、これまで取り組んできた先行投資が寄与していることは間違いありません。日開香港有限公司（NSH）への生産移管が完

了し、日本を介さずに北米市場に直接販売していく体制が整いました。また、納期改革を目標に導入したNEEDSシステム（トータルIT基幹システム）が軌道に乗り、即納率が向上いたしました。タッチパネルの自社一貫生産ラインもすでに稼働しております。市場の冷え込みによって投資に対する回収が若干遅れてはいますが、準備段階からひとつひとつの事柄に対する更なる精度を極める段階へと着実に前進しております。また、単年度では減収減益となりましたが、値上げを回避できた当社は長い目で見てお客様とのパイプをより強固にできたのではないかと考えております。

**当期より中期経営計画「Quantum Leap Advanced」が始まりましたが、現時点での進捗状況はいかがですか。**

新計画では、世界一の産業用スイッチメーカーになるべく北米におけるシェア10%獲得を最優先課題にしております。当期はまず、「あるべき姿」へ向けてNKK Switches of America（NSA）の組織強化に取り組みました。具体的には、主力商品であるインテリジェント・スイッチ（IS）の技術者をヘッドハントし、タッチパネルの拡販のために現地スタッフを来日させて教育いたしました。また、日本を介さないNSHからの直接購入（外一外販売）が購入全体の約3分の1にまで上

がってきております。円高に進んでいる現状においても為替の影響を気にすることなく、かつ日本に比べてコストが安く調達することができるようになったことから、今後、米国市場シェアアップのため思い切った販売戦略に打って出る体制ができつつあります。

特注品の販売は前期比101.1%とほぼ横ばいでしたが、全体が減少する中で微増したことについては、方針の徹底がグループ全体で浸透しているものと考えます。お客様のニーズの多様化に対応していくためにも特注品の販売は、今後も強化していく方針です。

世界に販売網を持つグローバル・ディストリビューターによる売上高は前期比122.4%で、2003年度時点と比べると3.5倍の規模になりました。当社の商品の高い品質と技術および豊富なバリエーションを認めていただいたこと、グローバル・ディストリビューター向けの社内プロモーションを地道に実施してきたことが功を奏して、グローバル・ディストリビューターを通じてNIKKAIブランドをさまざまな国々で売り込んでいただいております。今後におきましてもグローバ

ル・ディストリビューターとの関係をさらに強靱なものにすることによってグローバル・ディストリビューター内での当社の位置づけを高いものとし、グローバル・ディストリビューターからの販売を強化してまいります。

**重点商品であるインテリジェント・スイッチ、一貫生産を開始したタッチパネルの販売状況はいかがですか。**

当期のインテリジェント・スイッチの売上は昨年並みで終わりました。当期には間に合いませんでしたが、2008年4月には次世代ISである「有機ELディスプレイカラーIS」を世界同時発表しました。最先端技術を駆使した世界最小の当社独自の有機ELを使用することで、コンパクトなディスプレイに視認性の高い画像を映し出すことができるようになりました。軽薄短小化が進む中でより付加価値を上げた「有機ELディスプレイカラーIS」は、市場ニーズを踏まえた「日開ならでは」の新商品であり、今後の売上に必ず貢献するものと期

待しております。

タッチパネルについては苦戦をしております。しかしながら2006年12月よりタッチパネルの一貫生産を開始し、その効果が売上にこそまだ反映されていないものの、一貫生産ラインの見学や工場審査の増加、それにより引き合い件数は倍増しております。来期には売上が伸びるものとの手応えを感じております。

**トータルIT基幹システムの稼働により、納期は改善されましたか。**

当社は2006年10月に、「納期」を新たな武器とすることを目的に、従来の受注生産方式から計画生産方式へビジネスモデルを転換するためNEEDSシステム（トータルIT基幹システム）を稼働させました。これによりトッププライオリティーである即納率は従来システムより向上し一定の成果は得たものと考えておりますが、まだ「あるべき姿」には至っていないと考えております。現在「あるべき姿」を現実のものとするために仕組みを見直し、2008年度よりフォーキャストの期間を3ヶ月から2ヶ月に短縮し、当社の売上上位60%から各代理店様の売上上位60%にあたる商品を対象にする等、市場精度を高めることを念頭にいたビジネスモデルに発展させていきます。これによって納期がさらに改善できるものと考えています。また、これと併せて生産体制の合理化に努め、「スピード＝納期」という付加価値で市場の優位性を確かなものにいたします。

**現時点での来期の見通しについてお聞かせください。**

原油や貴金属の価格が低下するとは考えにくく、環境的には厳しい一年になるだろうと推測しております。

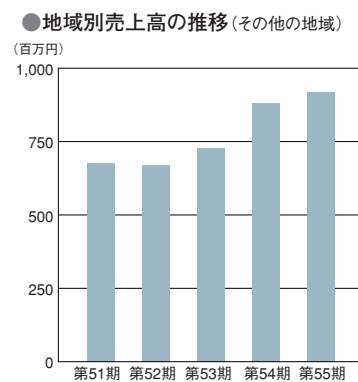
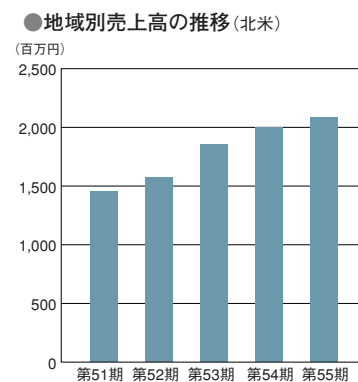
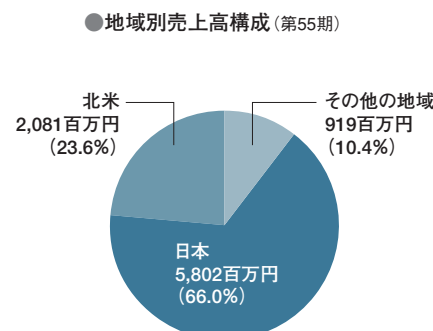
しかし、外部環境が厳しいからといって、当社の業績もそれに準じるわけにはまいりません。逆にこういう時こそライバルに差を付けるチャンスだと考えております。当社は産業用スイッチに特化する中で、攻めの姿勢は今後とも継続していきます。今のところ来期も商品の値上げは考えておりませんし、先ほどご紹介した「有機ELディスプレイ カラーIS」をはじめ、約10商品を市場に投入する予定です。さらに創業55周年ということもあり、代理店様向けに大規模な販売促進キャンペーンを実施いたします。当社は当社のやるべき事項を着実に結果に出し、来期も競合企業を上回る実績を残せるものと確信しております。

**最後に、株主様へのメッセージをお願いします。**

当期は数値的に反省すべきところの多い一年でしたが、当社のビジネスモデルは着実に進歩しています。投資に対する回収がやや遅れてはいますが、必要な種はまいており、近い将来必ず収穫できるものと考えております。

当社は小さくてもお客様に感動が与えられる会社、「Great Small Company」を目指しており、規模の大きさではなく、中身の濃さを最優先しております。産業用スイッチという分野に特化し、「品質」と「性能」と「スピード」を追求することが市場における優位性、ひいては企業価値を高めることにつながると考えております。また、そのことが長期的には株主の皆様への利益還元につながると確信しております。株主の皆様にはなにとぞご理解いただき、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## ■ 地域別売上高の推移



さあ <sup>かんじる</sup> “感” <sup>うごかす</sup> “動” スイッチへ。有機ELディスプレイ カラーIS誕生！

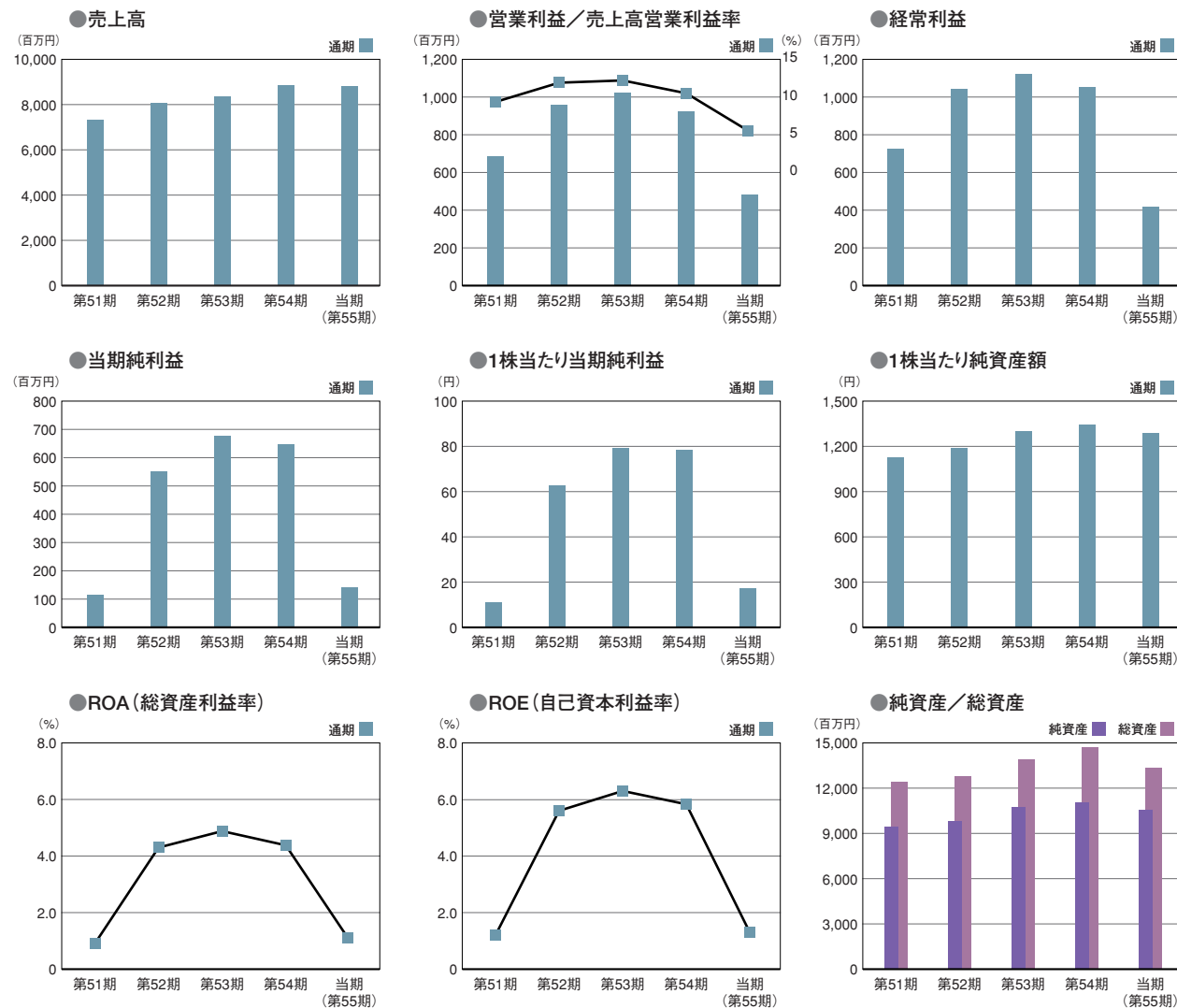
創立55周年を迎える今年、今までにも増してマーケットに新商品を投入し、スイッチで世界一の道を突き進みます。その第一弾はISシリーズの表示部に最先端の有機ELディスプレイを搭載した「有機ELディスプレイ カラーIS」。ハイカラー（16ビットカラー：65,536色）表示とあわせて、リアリティのある美しい画像が確認できます。コンパクトな画面だからこそ、より実感で

きるハイクオリティな映像を表示、手元で確実に確認できる新発想のスイッチです。放送・音響機器などで実績のあるISですが、有機ELの採用で医療機器など専門機器、民生機器へとさらに広範な展開を目指します。また従来のISシリーズをさらに高解像度にした「高解像度IS」、さらに小型化、高解像度の「高解像度コンパクトIS」も同時に発表しました。



IS新商品発表会実施される

4月9日の東京国際フォーラムを皮切りに、名古屋、大阪、福岡の4ヶ所で新商品発表会を開催、入場者数は600人を数えました。ユーザである研究・教育機関や企業の技術開発者をはじめ販売代理店の第一線の営業マンが、新商品のデモンストレーション、概要説明に熱心に耳を傾けておりました。このような新商品発表会は55年の歴史の中でもはじめてであり、新商品にける強い意気込みと産業用スイッチのリーディングカンパニーであることを再確認した発表会でした。



## ■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (平成20年3月31日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>9,476,539</b>	<b>10,149,307</b>
現金及び預金	4,294,965	4,770,813
受取手形及び売掛金	1,661,170	1,956,867
たな卸資産	3,255,939	2,997,100
繰延税金資産	183,868	196,146
前払費用	35,463	35,415
その他	48,211	196,381
貸倒引当金	△ 3,079	△ 3,417
<b>固定資産</b>	<b>3,897,222</b>	<b>4,589,903</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,172,903</b>	<b>2,538,126</b>
建物及び構築物	1,025,968	1,098,419
機械装置及び運搬具	283,234	406,797
工具・器具・備品	447,863	590,850
土地	408,512	416,528
建設仮勘定	7,324	25,530
<b>無形固定資産</b>	<b>505,174</b>	<b>532,334</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,219,144</b>	<b>1,519,443</b>
投資有価証券	897,743	1,345,436
繰延税金資産	164,715	26,123
その他	156,685	147,883
<b>資産合計</b>	<b>13,373,762</b>	<b>14,739,210</b>

(単位：千円)

科目	当期 (平成20年3月31日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>1,979,032</b>	<b>2,921,428</b>
支払手形及び買掛金	1,342,571	2,095,074
短期借入金	43,616	31,260
一年以内返済予定の長期借入金	3,005	12,504
未払法人税等	1,603	161,729
賞与引当金	137,780	136,700
役員賞与引当金	21,000	25,000
未払金	108,788	140,011
未払消費税等	3,914	2,800
未払費用	185,296	196,032
その他	131,456	120,316
<b>固定負債</b>	<b>799,598</b>	<b>744,319</b>
長期借入金	37,379	5,316
繰延税金負債	10,608	—
退職給付引当金	132,368	139,018
役員退職慰労引当金	464,890	453,060
その他	154,350	146,925
<b>負債合計</b>	<b>2,778,630</b>	<b>3,665,747</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>10,699,990</b>	<b>10,700,512</b>
資本金	951,799	951,799
資本剰余金	833,305	833,305
利益剰余金	9,070,828	9,069,005
自己株式	△ 155,942	△ 153,597
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 107,088</b>	<b>363,061</b>
少数株主持分	<b>2,229</b>	<b>9,889</b>
<b>純資産合計</b>	<b>10,595,131</b>	<b>11,073,463</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,373,762</b>	<b>14,739,210</b>

## ■ 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	前期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	8,802,920	8,855,769
売上原価	5,093,716	4,932,812
売上総利益	3,709,204	3,922,956
販売費及び一般管理費	3,226,416	2,997,111
営業利益	482,787	925,845
営業外収益	97,867	141,372
営業外費用	164,617	13,500
経常利益	416,036	1,053,718
特別利益	41,149	—
特別損失	62,230	22,407
税金等調整前当期純利益	394,955	1,031,311
法人税、住民税及び事業税	197,558	361,753
法人税等調整額	63,087	34,910
少数株主損失(△)	7,660	△ 11,121
当期純利益	141,969	645,767

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	前期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 41,901	994,539
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 245,365	△ 853,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 121,193	△ 171,851
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 69,587	2,044
現金及び現金同等物の増減額	△ 474,048	△ 28,399
現金及び現金同等物の期首残高	4,770,813	4,799,213
現金及び現金同等物の期末残高	4,292,765	4,770,813

## ■ 連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等			少数株主 持 分	純 資 産 合 計	
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成19年3月31日 残高	951,799	833,305	9,069,005	△ 153,597	10,700,512	360,593	2,467	363,061	9,889	11,073,463
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 140,141	—	△ 140,141	—	—	—	—	△ 140,141
当期純利益	—	—	141,969	—	141,969	—	—	—	—	141,969
自己株式の取得	—	—	—	△ 2,555	△ 2,555	—	—	—	—	△ 2,555
自己株式の処分	—	—	△ 4	210	205	—	—	—	—	205
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 272,953	△ 197,196	△ 470,149	△ 7,660	△ 477,809
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,823	△ 2,345	△ 522	△ 272,953	△ 197,196	△ 470,149	△ 7,660	△ 478,331
平成20年3月31日 残高	951,799	833,305	9,070,828	△ 155,942	10,699,990	87,639	△ 194,728	△ 107,088	2,229	10,595,131

## ■ 貸借対照表

(単位:千円)

科目	当期	前期
	(平成20年3月31日現在)	(平成19年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,785,184	9,231,256
固定資産	3,909,933	4,626,038
資産合計	12,695,118	13,857,295
負債の部		
流動負債	1,980,930	2,951,880
固定負債	697,745	679,113
負債合計	2,678,676	3,630,994
純資産の部		
株主資本	9,928,802	9,865,707
資本金	951,799	951,799
資本剰余金	833,305	833,305
利益剰余金	8,299,640	8,234,199
自己株式	△ 155,942	△ 153,597
評価・換算差額等	87,639	360,593
純資産合計	10,016,442	10,226,300
負債純資産合計	12,695,118	13,857,295

## ■ 損益計算書

(単位:千円)

科目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	7,339,170	7,551,346
売上原価	4,684,753	4,561,447
売上総利益	2,654,417	2,989,899
販売費及び一般管理費	2,227,612	2,081,219
営業利益	426,805	908,679
営業外収益	88,199	139,468
営業外費用	7,408	7,962
経常利益	507,596	1,040,186
特別利益	41,149	-
特別損失	140,675	21,662
税引前当期純利益	408,071	1,018,523
法人税、住民税及び事業税	175,612	324,296
法人税等調整額	26,871	12,167
当期純利益	205,587	682,059

## ■ 株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等	純資産計				
		資本準備金	資本剰余金合計							利益剰余金合計			
平成19年3月31日 残高	951,799	833,305	833,305	181,917	31,331	5,600,000	2,420,951	8,234,199	△ 153,597	9,865,707	360,593	360,593	10,226,300
事業年度中の変動額													
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	△ 140,141	△ 140,141	-	△ 140,141	-	-	△ 140,141
固定資産圧縮記帳積立金の取崩	-	-	-	-	△ 1,409	-	1,409	-	-	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-	-	-	205,587	205,587	-	205,587	-	-	205,587
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 2,555	△ 2,555	-	-	△ 2,555
自己株式の処分	-	-	-	-	-	-	△ 4	△ 4	210	205	-	-	205
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 272,953	△ 272,953	△ 272,953
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	△ 1,409	-	66,850	65,440	△ 2,345	63,095	△ 272,953	△ 272,953	△ 209,858
平成20年3月31日 残高	951,799	833,305	833,305	181,917	29,921	5,600,000	2,487,801	8,299,640	△ 155,942	9,928,802	87,639	87,639	10,016,442

## ■ 会社概要

商号	日本開閉器工業株式会社 (NIHON KAIHEIKI IND. CO., LTD.)
創業	昭和26年4月1日
設立	昭和28年12月11日
資本金	951,799千円
従業員数	連結278名 単体186名
本社事務所	〒213-8553 神奈川県川崎市高津区宇奈根715-1
事業所	名古屋営業所 大阪営業所 福岡営業所
主な事業内容	産業用各種スイッチの製造・販売
連結子会社	岩崎マニファクス株式会社 横浜パイオニクス株式会社 NKK Switches of America, Inc. 日開香港有限公司
ホームページ	http://www.nikkai.co.jp/
上場取引所	JASDAQ証券取引所

## ■ 取締役および監査役

取締役会長	大橋重雄
代表取締役社長	大橋智成
取締役	徳永雄平
取締役	市川忠夫
取締役	中村正
取締役	田中幸久
取締役	松原勝
取締役	青木明裕
取締役	大橋宏成
常勤監査役	池田弘
監査役	佐藤悦雄
監査役	坂本哲夫

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数	8,425,200株
株主数	525名

## ■ 大株主および持株数

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(有) ビッグブリッジ	1,320	15.66
大橋 幹雄	911	10.82
(株) 三井住友銀行	410	4.87
エスエフピーバリューリアリゼーション マスターファンド	391	4.64
(株) 三菱東京UFJ銀行	354	4.20
大橋 重雄	275	3.27
大橋 宏成	272	3.22
太陽生命保険(株)	225	2.68
大橋 智成	192	2.28

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 所有者別持株比率

